

KSGP18124

朝永 詩織
Shiori Tomonaga



大阪工業大学大学院
工学研究科
建築・都市デザイン専攻

「太子の道を行く」

[奈良県 太子道]

かつて太子道は聖徳太子によって人の歩く道として整備された。太子信仰を中心とした共同体が存在し、賑わいを見せながら人々の記憶が道に堆積している道である。しかし、かつてのにぎわいをみせた風景はない。本提案では太子道に一本の人が歩く道として再編し、太子道の在り方を提案する。



石野 隼丸 Junmaru Ishino 大阪工業大学 工学部 建築学科
共 柏木 俊樹 Toshiki Kayanoki 大阪工業大学 工学部 建築学科
同 川合 俊樹 Toshiki Kawai 大阪工業大学 工学部 建築学科
同 橋本 遼馬 Ryoma Hashimoto 大阪工業大学 工学部 建築学科
同 福田 翔万 Shoma Fukuda 大阪工業大学 工学部 建築学科
同 福本 純也 Junya Fukumoto 大阪工業大学 工学部 建築学科

KSGP18137

中村 勇太
Yuta Nakamura



愛知工業大学
工学部
建築学科
建築学専攻

「再編する都市の生態系」 [愛知県 名古屋市]



急速な都市開発によるビルの大量生産に伴い、建物の裏側として存在している「堀川川」を、対象地とするオフィスビルの余白となる空間を再編しながら、用途の組み合わせによって思いがけない機能が連鎖する複合施設を提案し、かつて賑わいをみせた歴史的空間「堀川川」へとつなげていく。

KSGP18133

高橋 樹
Tatsuki Takahashi



日本大学大学院
理工学研究科
建築学専攻

「重層する境界

—渋谷広告立面再編による新たな商業施設の設計手法の提案—】



渋谷はかつてより立地と集客力から広告が並び、現在では巨大看板群が建築を覆った。結果、床と外皮の資本価値が反転した雑居ビル群は内外を断絶してしまった。私は、広告を取り持っている建築内外の関係とその境界の再編による、壁收入と内部商業の両立を可能にする設計手法及び建築デザインを提案する。

[東京都 渋谷区 道玄坂スクランブル交差点前]

KSGP18142

中家 優
Yu Nakaie



愛知工業大学
工学部
建築学科
住居デザイン専攻

「渡り漁業 -季節移住共同体の再考-」 [石川県 輪島市 海士町(舳倉島)]



敷地は石川県舳倉島。かつては漁業によって繁栄した島であったが、漁業衰退と共に過疎化が進み問題となっている。そこで、島の伝統である季節移住を再考し、既存の島にあるもので島にない関係及び建築をつくる。海と共に島と生き、一時だけ賑わう、新たな島の住み方の提案である。

KSGP18134

海本 芳希
Yoshiki Umimoto



大阪市立大学大学院
工学研究科
都市系専攻

「移ろい映る ~歩行空間の再編~」 [大阪府 大阪市 旭区 千林商店街周辺]

共同出展者

木下 博人 Hiroto Kishita 大阪市立大学大学院 工学研究科 都市系専攻
岩崎 暖 Ataka Iwasaki 大阪市立大学 工学部 都市学科



大阪市旭区千林—ここには人情と懐かしさを感じさせる雰囲気が漂う。京街道・野崎街道とそこから続く細街路や抜け道。車にとっては劣悪な環境だが、それらの道は人々が歩き闊歩する街を守り商店街を賑わせてきた。更なる活性化のため、歩行者優先の街づくりにより、商と住空間、百年の歴史を紡いでいく。

「シモキタ解体物語」

[東京都 世田谷区 北沢2丁目11-4]

独特な文化を培い、市民が歴史を紡いできた街に再開発の波が迫っている。多くの人に愛される雑多で無秩序な空間が失われることを惜しみ、建築をまちに開きながら少しずつ解体する。これは開かれた解体現場に集い、そして楽しむことによって猥雑な魅力を愛する我々のささやかな抵抗とする提案である。

共同出展者

佐々木 秀人 Syuto Sasaki 日本大学大学院 理工学研究科 海洋建築工学専攻
渡辺 真理恵 Marie Watanabe 日本大学 理工学部 海洋建築工学科
西村 寿々美 Suzumi Nishimura 日本大学 理工学部 海洋建築工学科

KSGP18144

山本 壮一郎
Soichiro Yamamoto



日本大学
理工学部
海洋建築工学科



KSGP18154

井上 莉沙

Risa Inoue



法政大学大学院
デザイン工学研究科
建築学専攻

「〇〇人の演者たち -本を生業う産業ネットワーク のゆくえ-」
[東京都文京区小石川]



長年にわたって変容しつつも持続してきた町工場地域は新たな「コミュニティの場」としての可能性を含んでいるのではないか。この仮説をもとにこれからの新しい時代の働き方と暮らし方を考える。敷地場所は文京区小石川。本作りがさかんなこの街で生業を根拠とする共同体の再生を試みる。

KSGP18155

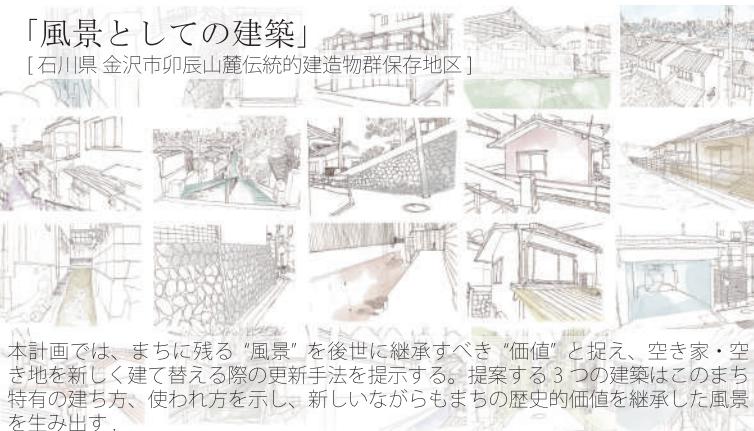
松井 勇介

Yusuke Matsui



金沢工業大学大学院
工学研究科
建築学専攻

「風景としての建築」
[石川県金沢市卯辰山麓伝統的建造物群保存地区]



本計画では、まちに残る“風景”を後世に継承すべき“価値”と捉え、空き家・空き地を新しく建て替える際の更新手法を提示する。提案する3つの建築はこのまち特有の建ち方・使われ方を示し、新しいながらもまちの歴史的価値を継承した風景を生み出す。

「再構築される地上資源」 [愛知県常滑市住宅兼職の場]

共同出展者
木下 亮 Ryo Kinoshita 名古屋大学大学院 環境学研究科 都市環境学専攻
熊谷 僚馬 Ryoma Kumagai 名古屋大学大学院 環境学研究科 都市環境学専攻
石原 可奈子 Kanako Ishihara 名古屋大学 工学部 環境土木・建築学科
竹村 弘生 Hiroki Takemura 名古屋大学 工学部 環境土木・建築学科



愛知県常滑市は手工業が発展した街で、煙突や窓といった街の資源が存在する。中でも土管を再利用して構成した土管坂は街特有の景観である。これらの特徴を活かし、地上資源と呼ばれるゴミを資源化、加えて景観に反映する地区を提案する。常滑らしさと街の活気が再構築される提案である。

KSGP18163

津村 智弘

Tomohiro Tsumura



名古屋大学
工学部
環境土木・建築学科

KSGP18168

林 将也

Masaya Hayashi



京都工芸繊維大学大学院
工芸科学研究科
建築学専攻

「線でつなぐ景」 [奈良県吉野郡吉野町]



「場所性」と「日常」が折り重なった吉野町ならではの風景を守るために、引き込み線の軸に沿って貯木の記憶と向き合いながら、林業を体系的に理解しながら、新たな日常を与える道を作ることで持続可能な風景をまちに残す提案を行う。

KSGP18162

田口 周弥

Syuya Taguchi



日本大学大学院
理工学研究科
建築学専攻

「浦島ノ伝承記 -子安浜におけるバラック集落 更新の物語-」

[神奈川県横浜市神奈川区浦島町]



横浜に隣接する子安浜と呼ばれる漁村集落のバラック住居群は、周辺の開発の中で残り、現在に至るまで多くの住宅が住み継がれてきた。そこは自由な増改築や、街中に溢れる生活の工夫や知恵から出る豊かさがあるが、諸問題から集落は限界を迎えている。魅力的な風景を紡ぎ存続可能な集落として再編する。

「19000m²の慰靈碑 -空に憧れた少年たち-」 [茨城県霞ヶ浦総合公園]



戦争の悲惨さを空間として再解釈し再構築する。予科練の歴史が刻まれた霞ヶ浦に計画する慰靈碑の提案である。終戦までの15年間、少年たちは空に飛び立つことに夢を抱き、日々の厳しい訓練に耐え大きく成長した。祖国の為にと信じ1万9千人が命を捧げた。写真や資料から学ぶ知識だけではなく、体感する経験として記憶に残し、平和記念館と共に保管する関係を目指す。

KSGP18177

池田 光

Hikaru Ikeda



日本大学大学院
生産工学研究科
建築工学専攻